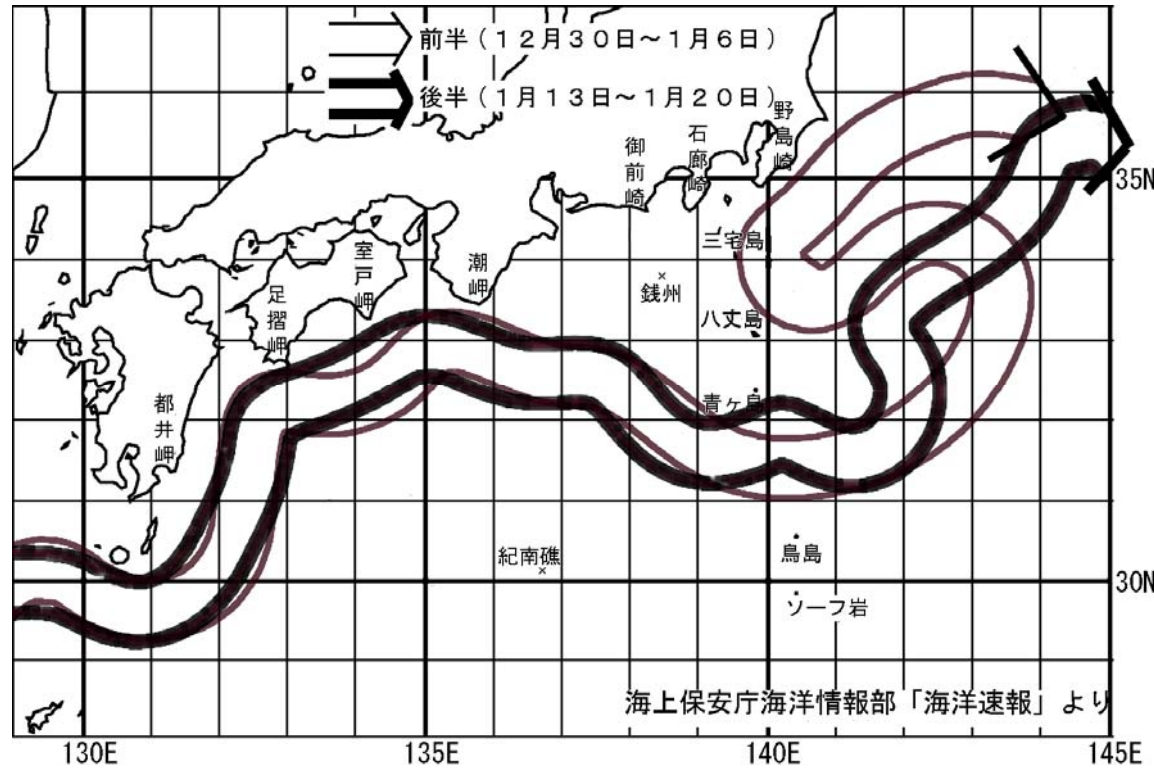


漁海況月報

平成21年 1月 1日

No. 1 ~1月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

月前半の黒潮は、足摺岬で接岸、室戸岬で離岸、潮岬沖で再び接岸した後、遠州灘沖を東南東に流れ、青ヶ島の南側を通り北東に流去した。その後、143°付近で蛇行して八丈島に接岸後、鋭くカーブして房総半島に接岸傾向で流れた。

月後半の黒潮は、足摺岬から潮岬にかけて接岸傾向で流去した。その後、遠州灘沖を東南東に流れ、青ヶ島の東西で小蛇行した後、八丈島の東方142°E付近から北東に流去した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾では13~17℃台、駿河湾東部では11~16℃台、西部では10~16℃台で経過した。

上旬は黒潮北上部から16~17℃台の暖水が波及した影響で、相模湾ではやや高めとなったが、中旬には暖水波及が収まり、各地区ともおおむね平年並みであった。月を通じては、おおむね平年並みで経過した。

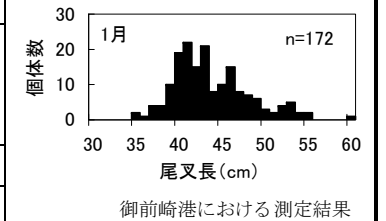
【竿釣近海カツオ】

1月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海竿釣り船によるカツオの水揚量は51トンで前年同期の56%であった。魚価は348円/kgで、前年同期を上回った。沿岸竿釣り船は水揚げがなかった。

近海竿釣り船は、中旬から今年の操業を開始し、小笠原諸島海域でカツオを漁獲した。1月25日に御前崎港で水揚げされた尾叉長は41cmにモードがあった。

竿釣りカツオ水揚量 (県内主要5港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
21年 1月上旬	0	0	—	—
中旬	13	1	13.0	351
下旬	38	3	12.7	346
21年 1月計	51	4	12.8	348
20年 1月計	91	3	30.3	255
19年 1月計	48	2	24.0	278



(平成21年から沿岸と近海竿釣り船を合計した値を載せます。)

定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	16.3	16.9	16.4	15.6	16.1	15.9	13.0
	1.1	1.0	1.2	0.0	0.5	1.2	0.0
中旬	15.1	15.7	14.8	14.1	15.3	15.7	11.6
	0.3	0.4	0.1	-0.9	0.2	1.4	-0.8
下旬	14.3	14.4	13.9	13.8	14.0	14.3	11.6
	-0.1	-0.5	-0.4	-0.9	-0.5	0.3	-0.3
月	15.2	15.6	14.9	14.5	15.1	15.3	12.0
	0.4	0.3	0.1	-0.6	0.1	1.0	-0.4

【定置網】

平成21年1月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は565トンで、昭和57年以降で最も多く漁獲され、操業がなかった伊豆山、赤石を除く1漁場当たり水揚量94.1トンは前年15.7トン（7漁場）の599%、平年値（昭和57~平成20年）20.6トンの457%であった。

魚種別水揚量は、①サバ類243.3トン（A：前年同月比1163%、B：平年同月比1774%）②スルメイカ237.7トン（A：426%、B：982%）③カタクチイワシ41.3トン（A：前年1402、B：131%）④マルソウダ6.0トン（A：4,928%、B：2,173%）⑤マイワシ5.2トン（A：901%、B：19%）の順であった。

サバ類は北川、川奈を中心に入網し、12月に続き昭和57年以降の最高値の97トンの倍以上漁獲され、1月としては記録的な大漁であった。ゴマサバが中心であったが、古網ではマサバの方が多く20トン漁獲された。尾叉長のモードはゴマサバ、マサバとも32cmであり、2007年級群が中心と考えら

れた。スルメイカは北川、富戸を中心に入網し、昭和57年以降の最高値128トンの倍近く漁獲される記録的な大漁で、外套背長のモードは25cmであった。カタクチイワシは古網に集中的に入網し、谷津、川奈に入網したものの被鱗体長のモードは9cmにみられた。マルソウダは、北川、川奈を中心に入網し、昭和57年以降で最も多く漁獲され、尾叉長のモードは32cmであった。マイワシは1月6日に富戸に集中的に入網し、尾叉長は測定できなかった。

また、ブリについては「ぶり」銘柄が2.9トン、393尾漁獲され、前年の1814%、平年の346%と好調であった。

漁場別水揚量は、北川210トン（スルメイカ、サバ類中心）、富戸114トン（スルメイカ中心）、川奈109トン（サバ類中心）の順であった。

【サバたもすくい棒受網】

年明けの水揚げは、たもすくいが18日から、棒受網は21日からとなった。小川港には両漁業によってゴマサバ317トン（前年同月比68%）が水揚げされた。ゴマサバの1隻あたり水揚量は28.8トン/隻（前年同月比105%）と比較的好調であった。ゴマサバの平均単価は53円/kgで、前年同月（98円）、前月（58円）を下回った。

漁場は、たもすくいが三本に、棒受網は三宅、三本に形成された。ゴマサバの魚体は、27~29cmモードの2歳魚（2007年級群）と思われる群が主体となったが、前月まで見られなかった25cm以下の個体が混じるようになった。また、25~30cm前後のオアカムロも混獲された。なお、たもすくいのゴマサバの方が棒受網よりもやや大型であった。

小川港 サバ類（たもすくい・棒受網漁業）水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
21年1月上旬	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中旬	0	15	1	1	0.0	15.0	—	63	三本
下旬	0	302	4	10	0.0	30.2	—	52	三本、三宅
21年1月計	0	317	5	11	0.0	28.8	—	53	—
20年1月	0	464	8	17	0.0	27.3	—	98	三宅、三本
19年1月	85	390	15	27	2.2	14.4	88	50	三宅、三本

* 水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【シラス船曳網】

1日1か統当りの漁獲量は、駿河湾では52kg、遠州灘では34kgであった。主要6港平均では51kgであり、これは前年同期(149kg)の34%、平年同期(過去5か年平均:116kg)の44%と前年、平年を下回った。また、総水揚量は3.7トンで前年同期(32.2トン)の12%、平年同期(22.4トン)の17%と前年、平年を大きく下回った。平均単価は1,255円/kgで、平年同期(1,060円/kg)を上回った。

シラス水揚量（主要6港）

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延続数	平均漁獲量 (kg/統)	平均単価 (円/kg)
新 居	0.0				
舞 阪	0.0	1	1	28	758
福 田	0.1	1	2	43	815
御前崎	0.1	1	3	30	722
吉 田	1.4	3	28	51	1,032
静 岡	2.1	2	40	53	1,455
平成21年1月計	3.7	8	74	51	1,255
平成20年1月計	32.2	17	217	149	958
平成19年1月計	36.1	15	214	168	937

【まき網】

小川港ではマイワシの水揚げはなかった。沼津港ではマイワシが73kgの水揚げで平年同期(33.1トン)の0.2%であり、カタクチイワシは0.8トンの水揚げ(平年同期は水揚げなし)であった。静岡港ではマイワシの水揚げはなく(平年同期は水揚げなし)、カタクチイワシの水揚げもなかった(平年同期16.2トン)。伊東港ではマイワシの水揚げはなかった(平年同期0.5トン)。

注) 平年同期: 過去5か年(2003~2007年)平均

【調査船の動向】

駿河丸

1月 6日 ~	1月 8日	地先定線観測調査	(3日間)
1月 15日 ~	1月 16日	駿河湾短期海況変動調査	(2日間)
1月 21日 ~	1月 22日	マリンロボ3,4号調査	(2日間)
1月 26日 ~	1月 27日	サクラエビIKMT調査	(2日間)
1月 29日 ~	1月 30日	サバ調査	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

